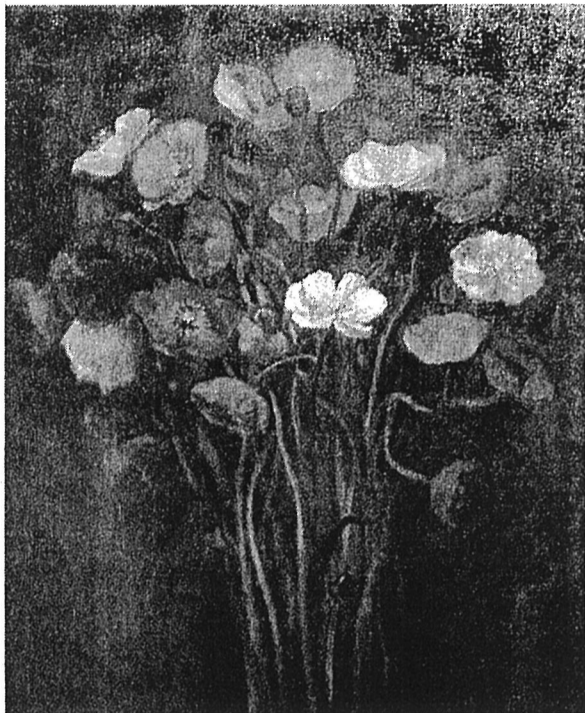


美術月評

喜久村 徳男

4月



中島イソ子作品

四月は忙(せわ)しい月だった。那覇市民ギャラリーがパレット(もと)に移転、スペースが二倍強になったものの天井の低さが気になる。いろいろと問題を含みだした読谷村美術館が一周年記念を迎えたと聞くがどういふ美術館なのか内容が伝わっていない。一方、三年間親しんできたギャラリー南都が開鎖したのほまじろなスペースとギャラリー間の道線としていい場所だっただけに残念

女の秘めた情念の世界

中島イソ子

生まれべく「沖縄質」の表現

高橋 渉二



高橋渉二作品

島の特長がある。一方で中島とは絵描き仲間(知友関係)にあるだけに、彼女の自画像の前(本人と見)つめあっているように感じられる。中島は顔の部分が焦点を当てて描いている作家で、女性であるだけに女の秘めた情念の世界を、生みだしている。中島個人の世界に(ま)まっている

【中島イソ子展】
人物画で自画像を描き続けた中島イソ子。自画像の中でも顔の部分が焦点を当てて描いている作家で、女性であるだけに女の秘めた情念の世界を、生みだしている。中島個人の世界に(ま)まっている

マルダシのアツケラカン、持つ暖かみと素焼きの体温の企画展としての個展である。彼は前にも大がかりな展覧会(また)で歩きたすのではないかと、北海道に嫌味がない。北海道



城間喜宏作品

生きざま問う作品群 漂う強烈な存在感

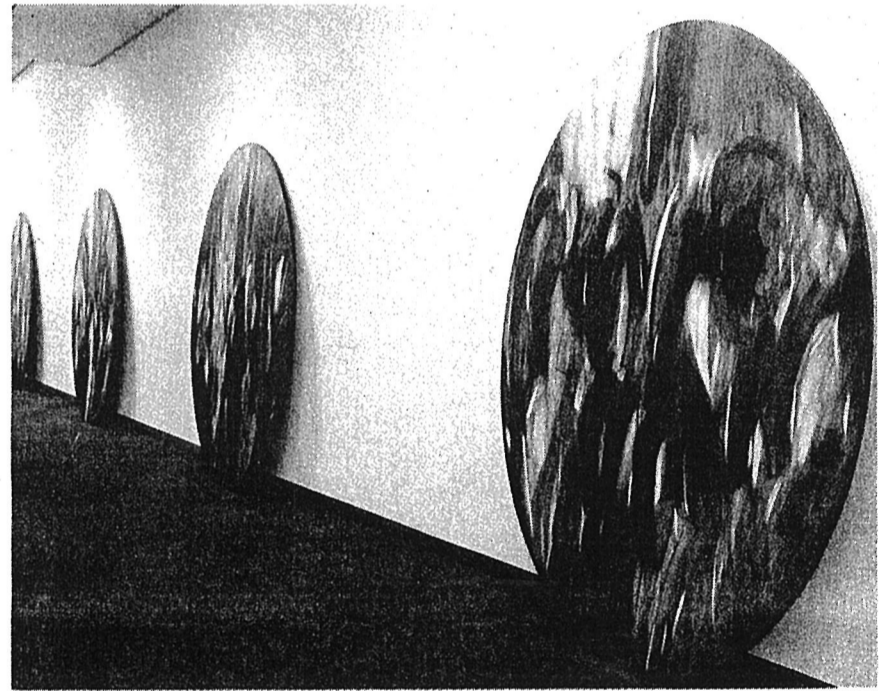
間宏 津三 城喜 永禎

【城間喜宏展】
読谷村美術館一周年記念

個展を催したが今回も初期の作品から今年の新作までの約五十点を展示した。新景をも訴えている強さがある。

【永津禎三】
まず会場に入った瞬間、場全体が異空間を造りだしている。それが共鳴する中で圧倒されてしまう。作者は会場空間と作品との関係が伝わると同時に、頑固なまでのこだわりも効果には神経をつかっている。小品、大作(二九〇×三六〇)の十五点の作品は、浦添市美術館の展示空間を十分に活かした発表になっている。ほとんどの作品を床に置き壁に立て掛けた展示法で(屏(びょう)風(ふう)の機(き)の翼(よく)をはめ込んだ画面は、物自体の持つ発言

【永津禎三】
まず会場に入った瞬間、場全体が異空間を造りだしている。それが共鳴する中で圧倒されてしまう。作者は会場空間と作品との関係が伝わると同時に、頑固なまでのこだわりも効果には神経をつかっている。小品、大作(二九〇×三六〇)の十五点の作品は、浦添市美術館の展示空間を十分に活かした発表になっている。ほとんどの作品を床に置き壁に立て掛けた展示法で(屏(びょう)風(ふう)の機(き)の翼(よく)をはめ込んだ画面は、物自体の持つ発言



永津禎三作品

【永津禎三】
まず会場に入った瞬間、場全体が異空間を造りだしている。それが共鳴する中で圧倒されてしまう。作者は会場空間と作品との関係が伝わると同時に、頑固なまでのこだわりも効果には神経をつかっている。小品、大作(二九〇×三六〇)の十五点の作品は、浦添市美術館の展示空間を十分に活かした発表になっている。ほとんどの作品を床に置き壁に立て掛けた展示法で(屏(びょう)風(ふう)の機(き)の翼(よく)をはめ込んだ画面は、物自体の持つ発言

(官野湾高校美術教諭)